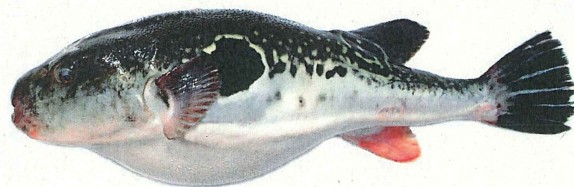
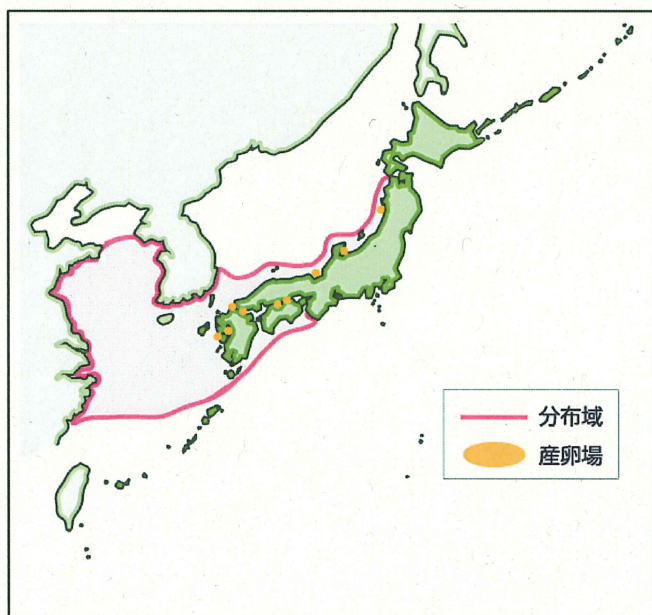


トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群 の資源状況について

【トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群】

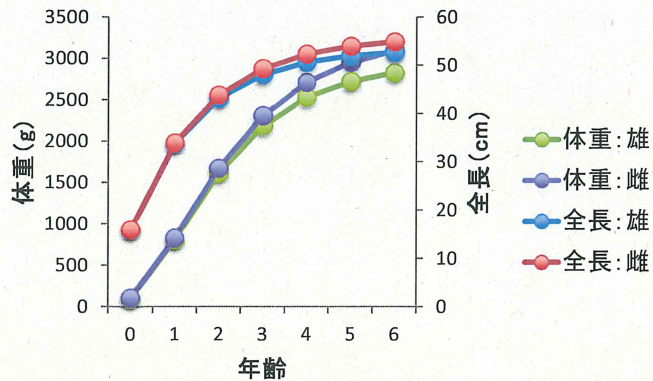
- 広い範囲を回遊するため、関係県が協力して資源を管理する必要
- 稚魚期から成魚にわたって各海域で様々な漁法で漁獲されるため、獲りすぎをどう防ぐか工夫が必要

分布域と産卵場



トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の体長・体重

- 雄は2歳、雌は3歳で成熟
- 寿命は10年



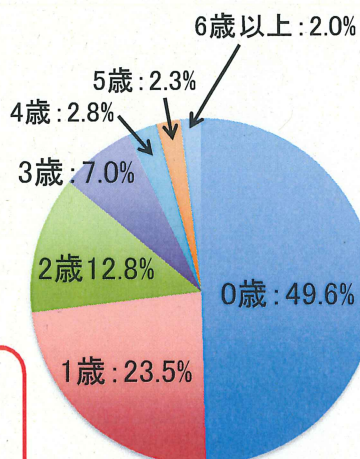
- 0歳: 16cm 101g
 - 1歳: 34cm 821g
 - 2歳: 44cm 1,645g
 - 3歳: 49cm 2,247g
 - 4歳: 51cm 2,621g
 - 5歳: 53cm 2,838g
 - 6歳: 54cm 2,959g
- (10月時点)

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の年齢別漁獲状況

(2002-2012年の平均)

2～6歳以上: 日本海・東シナ海の延縄、定置網、有明海の釣り、瀬戸内海の定置網、袋待網で漁獲

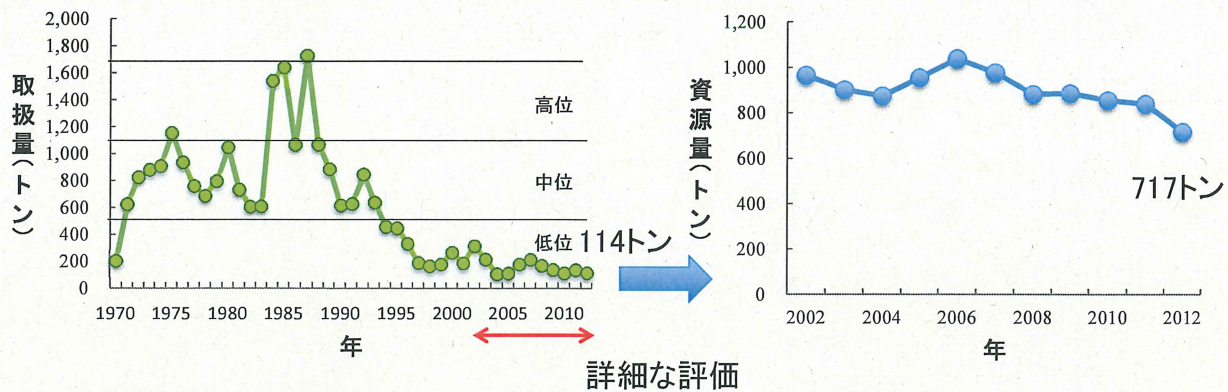
1歳: 日本海・東シナ海の延縄、瀬戸内海の延縄、釣り、底曳網で漁獲



0歳: 有明海の釣り、瀬戸内海の小型定置網、底曳網、釣り、延縄が漁獲

- 若齢魚を中心に漁獲されている。
- 多くの県では、小型魚の再放流の取り組みを実施している。
- 2～6歳以上でも産卵時期の漁獲が資源に与える影響は大きい。

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源評価



長期資源量指標の推移
(下関唐戸魚市場のトラフグ取扱量)

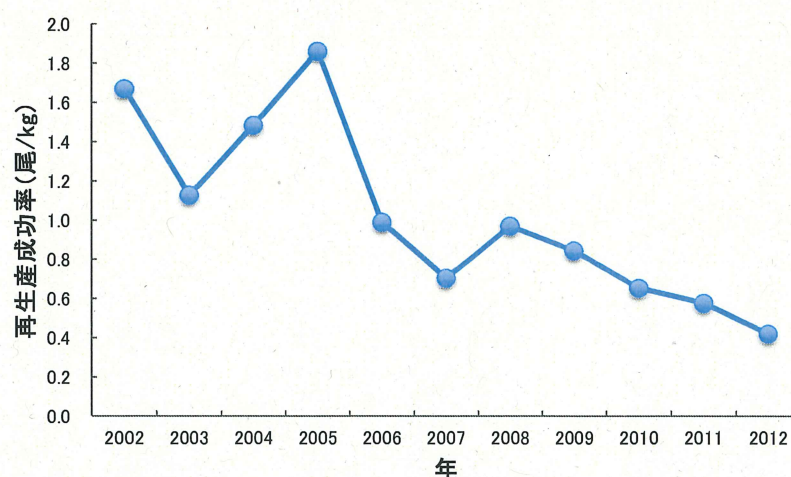
資源量の推移

【資源評価結果の概要】

- 資源状況は低位水準で動向は減少であり、現状の漁獲および放流が継続された場合、資源量は減少していくと推定される。
- 資源は危機的な状態である。

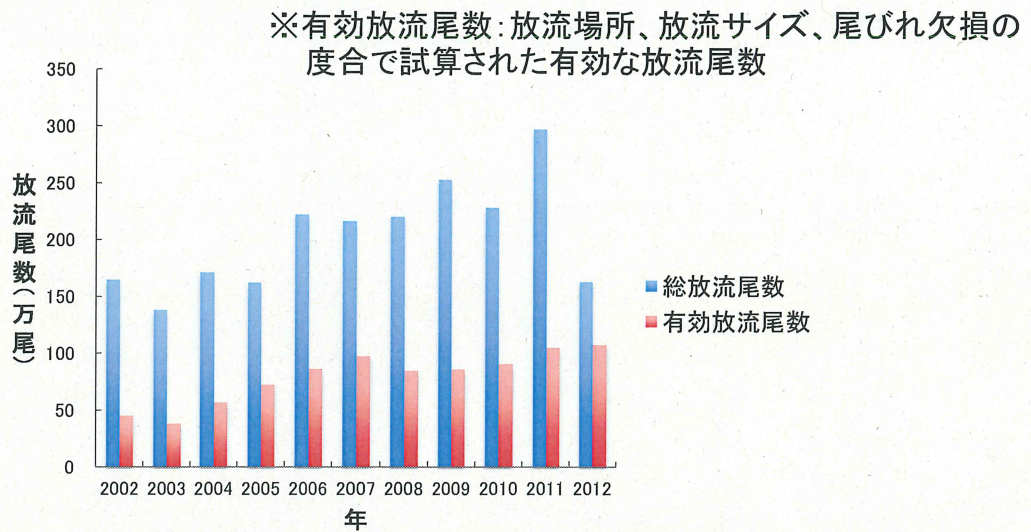
トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の再生産成功率の推移

※再生産成功率: 1kgの親あたりの天然0歳魚の資源尾数



- 2006年以降、再生産成功率は低水準かつ減少傾向で推移している。
- 原因は検討中。
- 資源量減少の大きな要因。

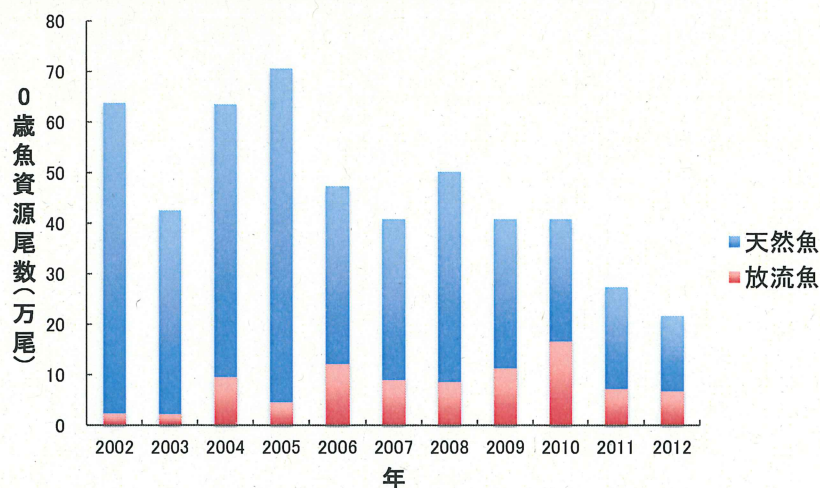
トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の放流尾数の推移



○近年、本系群では毎年約163万尾の人工種苗が放流されている。

○天然稚魚の成育場に全長7cm以上で尾びれの欠損のない人工種苗を放流しなければ、効果は期待できない。

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の放流効果



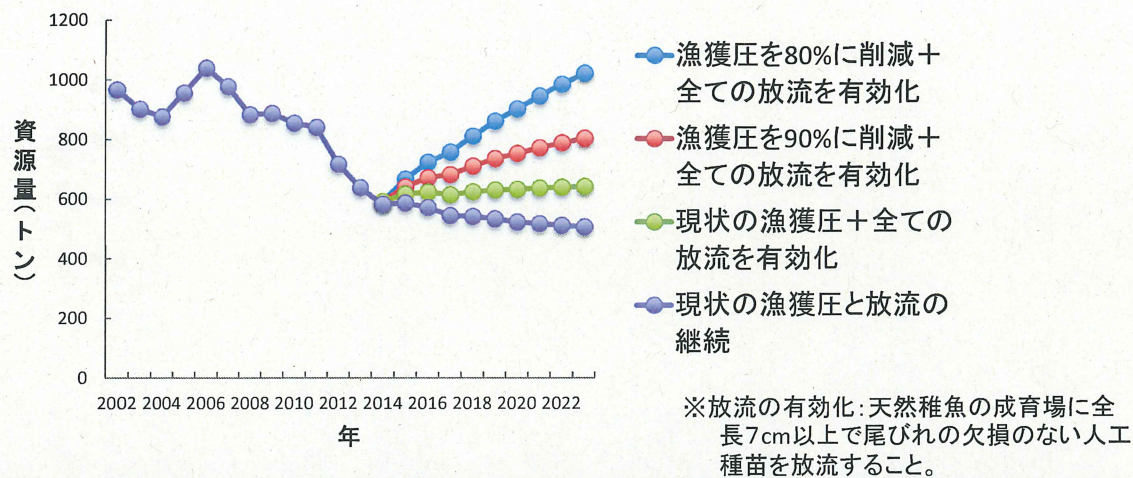
0歳魚資源尾数の推移

○近年、本系群では毎年約163万尾の人工種苗が放流されている。

○近年、0歳魚資源尾数に占める放流魚の割合は約3割と高いが、0歳魚資源尾数は減少傾向のままである。

トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源管理

条件別の資源量の推移



- 現状の漁獲圧と放流の継続では資源量は減少し続けると予測される。
- 全ての放流を有効化した場合でも、現状の漁獲圧の継続では現状の資源量を維持できない。
- 放流の有効化と漁獲圧削減を併せることで資源量の回復が期待され、早急に取り組む必要がある。